

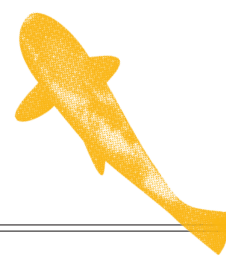
sento &
neighborhood
journal

THERME SUEHIRO

せんとうと
まち新聞北区の
記憶あつめ編

Vol.9

テルメ末広



ABOUT

この事業は「北区政策提案協働事業」として、一般社団法人せんとうとまちが北区と協働し、令和5年度から3カ年計画で、北区の現役銭湯全22軒(令和6年現在)をめぐる。銭湯と周辺のまちの歴史や物語を聞き取り、広く共有することで、多世代間の交流を促し、地域のコミュニティ再生へとつなげることを目指しています。

CONTENTS テルメ末広紹介/記憶地図/住民かく語りき

温故知新の精神で
風情と快適さを融合し

「リラクゼーション」を追求

戦後の動乱期に
誕生した末広湯

東京メトロ南北線志茂駅から徒歩7分のところにある「テルメ末広」。京町屋のような落ち着いた外観が目につくこの銭湯のはじまりは1951年。初代は現店主の徳江康幸さんの祖父・久保末吉さんで、18歳の時に東京で銭湯を営んでいた兄を頼って、地元の福井県大野市から上京したという。そして、兄が錦糸町で営んでいた「日の出湯」などで丁稚奉公をした後、29歳の時に独立し、赤羽に「鹿島湯」を開業。その後、鹿島湯を経営しながら、志茂で戦時中延焼防止のために取り壊しに遭った「熊の湯」という銭湯の土地を借りて「末広湯」を立ち上げた。

以来、高度経済成長期が終わる頃まではお客が引きも切らず、昭和30年代の終盤には間口を8間に拡張し、「二人番台」にするなどして、より多くのお客を受け入れられるように改装。当時は乳幼児連れのお客が多く、女湯にはベビベッドが15台くらい並んでいたという。さらに出窓に台を足してまかなうほどだったそう。

大規模な中普請と同時に
「テルメ末広」に改称

そんな末広湯を現店主の徳江さんが引き継いだのはバブル経済が絶頂を迎えていた1989年頃だった。当時、徳江さんは25歳と若く、サラリーマンとしてキャリアを重ねている最中で、銭湯の好況期がすでに終わっていることも実感していた。だが、「いずれは継ぐつもりだったし、自分にはサラリーマンよりも銭湯経営の方が向いている、さほど迷いはなかった」と振り返る。



その後、徳江さんが30

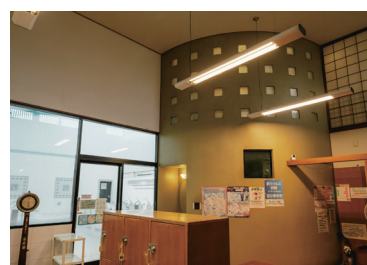
歳くらいの時に大規模な中普請(銭湯の業界用語で内部の修繕工事のこと)を行い、屋号を「テルメ末広」に改称し、再スタートを切った。ちなみに、テルメ末広の「テルメ」にはイタリア語で「温泉」という意味があり、当時人気だった「札幌テルメ」にもあやかっていたとか。「改修にあたっては、全国各地のいろんなタイプの健康ランドや宿泊施設を巡り、良いところをしながら「リラクゼーション」というテーマを追求した。お客さんに心身ともにくつろいでほしいという一心で、建築家である義兄(椿建築デザイン研究所の椿邦司代表)とともに木材を生かした京町屋風の建物をつくりあげた」と徳江さんは話す。

実際、テルメ末広は古き良き銭湯の風情と現代的な快適さが見事に融合した空間になっている。木材を多用した「和」のテイストが感じられる増設された休憩スペースは、日当たりと風通しが良く、居心地抜群。おかげで「風呂上がりうたた寝するお客さんも多い」とか、まさに憩いの場といった雰囲気だ。

そして、脱衣場や風呂場は和モダンな風情が印象的。いずれも「末広湯」時代の構造を生かし、天井が高いので開放的だ。壁や床のタイルがかわい



徳江康幸さんご一家。妻の世津子さんに加え、息子の晃さんも現在銭湯を手伝っている。



高い天井を生かしながら洒落たデザインに改装された脱衣場。

らしく、随所に遊び心が見られるのもおもしろい。たとえば「魚のタイル」の右上に猫のタイルがあるのは「猫が魚を狙っている」からだ」そう。

もちろん、風呂にもこだわりが詰まっている。井戸水を沸かした湯はなめらかで、なかでも季節の漢方薬湯は大人気。浴場組合が実施している薬湯だけでなく、こだわりの天然自然のハーブ薬湯や、常連さん差し入れの野菜などを使い、独自の薬湯づくりをしているそうだ。

地域住民からも
遠方客からも愛される

この居心地の良さ、そして荒川に近いという立地が相まって、最近ではランニングやウォーキングの際に立ち寄り、風呂やサウナで一息入れる人たちが増えているそう。

「ありがたいことに遠方から足を運んでくれる人も増えてきた。古き良き風情を残しながら、快適さにもこだわり、新しい客層を切り拓いていきたい」と徳江さんは力を込める。まさに温故知新、これからの銭湯であり続けてほしいものだ。



なめらかな井戸水と風の通りが心地よい露天風呂。

せんとう情報 SENTO DATA

テルメ末広

テルメ末広 東京都北区志茂5丁目16-14 東京メトロ南北線「志茂駅」から徒歩7分
14:00~23:00 定休日:金曜 月1回連休あり

ジェット バイブラ 水風呂 露天風呂 サウナ 立ちシャワー 漢方薬湯

※「記憶地図」は、一部ご近所の皆さまの記憶や思い出を元に作成しています。事実と異なる表記があるかもしれませんが、ご了承ください。

記憶地図

テルメ末広編

ワークショップや近隣住民の方へのインタビューを通して見えてきたまちの記憶地図。かつての銭湯界隈のあたたかいまちの風景を想像しながら、湯上りに歩いてみましょう！

大柳青果店(総合食品 大柳)

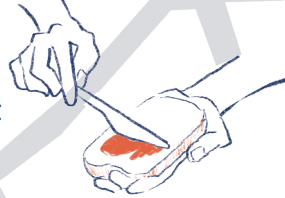
1950年代創業の青果店。野菜や果物だけでなくアイスや生活雑貨なども販売するなど、地域になくてはならない憩いの場でもあった。明るい女将さんを慕って通う人も多かったそう。



提供：大柳安彦

福井パン屋

一斤をスライスして銀の缶に入れたバターを塗り、ピーナッツバターやジャムを挟んで売ってくれた。できたてホヤホヤのジャムサンドがおいしかったとか。



貸本屋

テルメ末広の店主も幼い頃よく通った貸本屋。ここで漫画を借りて読むのが子どもたちにとって大きな楽しかったそう。



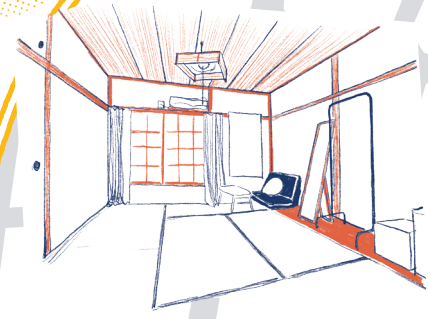
荒川の旧岩淵水門(赤水門)

かつて氾濫の多かった荒川の治水の要であった旧岩淵水門。小学校にプールがなかった頃は、この近くの水練場で泳ぎの練習をしたそう。



ぷらっと末広

昭和の趣を残した築50年のアパート「ぷらっと末広」では民泊を行っており、風呂はテルメ末広を利用できる。民泊はもちろん、ワークショップやイベント、撮影スタジオとしてレンタル可能なお部屋も。



テルメ末広

京町屋のような建物が特徴的なテルメ末広。中普請前の脱衣場や風呂場の様子からもわかる広々とした空間を生かし、現在は和モダンな建物に生まれ変わった。



提供：徳江康幸

住民かく語りき

テルメ末広周辺

わたしのせんととうとまち

— 北区の記憶あつめVol.9 テルメ末広 —

6月6日、記憶集めトークイベントが実施された。これはテルメ末広周辺のかつての写真や地図を見ながら地域の記憶を掘り起こしていくというものだ。常連をはじめとした参加者に思い思いに語り合ってもらった。

まず盛り上がったのはテルメ末広界隈の昭和の情景。昔、熊野通り沿いには飲食店はもちろん、八百屋や肉屋、貸本屋、文具屋など、多くの商店があり、それぞれに思い出があるとのこと。「戦後の名残を感じさせる平屋の市場があった。その肉屋がつくるポテサラ入りのハムカツが大好きだった」と店主の徳江康幸さんも懐かしそうに話す。

また、荒川に近いこともあって、「昔は堤防も低く、野球をしていてボールが川に落ちてしまうこともしばしばあった」「昔は大雨の時に支流や側溝から水が溢れてくることとがよくあったが、新しい岩淵水門(通称「青水門」)ができてからはほとんどない」なんて話題も飛び出した。

そして、終盤には常連たちのテルメ末広愛が炸裂。高齢の常連からは「東北出身の女中さんに赤ん坊を預けて風呂に入っていた頃が懐かしい。お盆やお正月にはお礼にお金を包んで渡していた」「風呂上がりには近所の仲間とビールを飲みながらおしゃべりをするのが楽しかった」「銭湯から家がよく見えて、いらないと呼び出しがなかった。今でも「いったい思い出が語られた。背中を流し合う」という。また、最近になって通いはじめた常連は「近所の銭湯が廃業してしまったので、2、3年前からここまで歩いて来ている。車いすで訪ねた時もいろいろ親切にしてくれて、本当にありがたい。お湯も良い、人も良い、最高の銭湯だ」と話していた。

今回は銭湯やその界隈だけでなく、常連たちのテルメ末広愛もたっぷりと語られた。次回も参加者とともに、多くの記憶を集めていきたい。

COMMENT

まちや生活スタイルの変化に負けず常連さんとの縁を大切にしたい
— 徳江康幸さん(テルメ末広3代目店主) —

私にとってうちの銭湯は、昔から遊び場でもあり、仕事場でもありました。中普請前は脱衣場に出窓があり、風通しが最高だったんです。掃除を手伝い、そのまますこで昼寝しちゃうこともありました。

それにしても、昔は個性的な常連さんが結構いたように思います。脱衣場や流し場で尺八を吹く人や詩吟を吟じる人までいましたから。それもまた一種の「味」になっていたような気がします。

銭湯ならではの「味」といえば、往時は番頭組合から派遣される番頭さんが下風呂(湯を温める釜)の上の小屋に住み込みでいました。子ども心に番頭さんはちょっとこわい存在で、あんまり親しくできなかったです。

テルメ末広に遊びに来てね！



Photo / Mari Okamoto

発行：一般社団法人 せんととうとまち

代表理事：栗生はるか 理事：サム・ホルデン / 牧野徹 メンバー：三文字昌也 / 江口晋太郎 / 福井彩香 / 渡邊勢土

編集・執筆：熊本鷹一 グラフィック：株式会社PIN DESIGN 菅原悠介 / 岡本茉莉 協力：東京都北区浴場組合

北区政策提案協働事業「銭湯を核とした多世代間の地域コミュニティ再生と記憶アーカイブによる歴史的・文化的まちづくり」(担当：北区政策経営部シテプランディング戦略課)にて制作。

一般社団法人せんととうとまちは、銭湯とその周辺のまちを共に考え、関係性を編み直しながら、銭湯をめぐる生活文化を再生・活性化していくことを目指しています。

活動支援の協賛・寄付を募集しています
<https://bio.site/sentotomachi>

